

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス（2025年1月～2025年3月）

日付	場所	できごと
1月13日	M9東屋付近	16年ぶり？タデジマカミキリ観察 カクレミノの枝で冬越しをするタデジマカミキリ探しをしました。最新の記録としては2009年に撮影された写真しかありませんでしたが、ちゃんと野外施設にすみ続けてくれています。
2月1日	本館横の人工池	ダイサギのカエル捕食シーン目撃 池で捕獲したヤマアカガエルを本館の屋根の上で食べていました。人工池をエサ場のひとつにしていたのか、2～3月に池の前にじっとたたずむ姿が度々目撃されました。
3月1日	自然観察園の谷戸	ヤマアカガエルの産卵行動「カエル合戦」が確認されました。 昨年1月26日の卵塊初確認より遅かったですが、卵塊の数は昨年より多く確認できました。
3月20日	自然観察園の谷戸	アズマヒキガエルの「カエル合戦」確認 ヤマアカガエルに対し、例年通りの時期になりました。Y9付近やY25の奥で卵塊が見られました。

タデジマカミキリ。枝に溝を掘って
はまることで枝と一体化している

カエルを食べるダイサギ



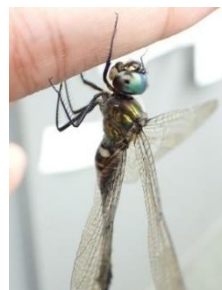
アズマヒキガエルと卵塊

<小さな池の生き物さがし>

3月にケヤキ広場にあるコンクリートの小さな池で堆積した落葉の除去と周囲の樹木の枝整理を行いました。2020年以来的の作業でしたが、今回もアカハライモリを確認することができました。昆虫も、マメゲンゴロウとクロスジギンヤンマ、ヤブヤンマのヤゴ、そして今回初確認のタカネトンボのヤゴが見つかりました。タカネトンボは、エソトンボ科でメタリックなグリーンが美しいトンボです。神奈川県内では数は減少していてめったに出会うことはないトンボと言われています。成虫の出現時期は7～9月頃です。探してみましょう。



タカネトンボのヤゴ



タカネトンボの成虫

＜ククザキイチゲの花＞

3月上旬からN11～14付近でククザキイチゲが開花し、下旬に見ごろをむかえました。ニリンソウやイチリンソウと同じキンポウゲ科イチリンソウ属で、園内で見られる早春の植物の中でもっとも早く開花します。今回はこのククザキイチゲをじっくり観察してみました。

図鑑によると、花弁のようにみえるものは萼片で、色は白または青紫色、数は8～13枚とあります。園内で見られたものにも白いものと青紫色のものがありました。しかし萼片の数は13枚以上のものが多く、青紫色の花にいたっては30枚以上ありそうなものまでありました。ずいぶん個体差があるようです。

また、ククザキイチゲはニリンソウ、アズマイチゲなどとともに、旧自然保護センター時代の1985年に宮ヶ瀬ダムに沈む地域から移植されたと記録されています。（自然保護センター報告No.6）

ククザキイチゲとアズマイチゲは花がよく似ていますが、花のすぐ下にある総苞葉という葉の形で見分けられます。今回確認されたものは多少違いはあるものの、小葉が羽状に分裂していたので、ククザキイチゲと判断しました。

ククザキイチゲの見ごろが過ぎると次はニリンソウ、イチリンソウが咲き誇ります。春のお花畑を楽しんでください。

(写真上4枚)ククザキイチゲの花
(写真下2枚)総苞葉



自然観察園の作業記録

＜一部園路を再開します＞

昨年8月の台風の被害により通行止めとなっていたN7からN16の間の園路を再開します。沢を渡るN7の橋が落ちてしまったため、N8付近からN22に向かう斜面になだらかな階段を作りました。

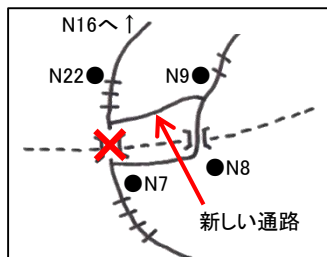
しかし、新しい通路は斜面を削ったり、土を盛ったりしているため、完成直後はまだ地面が柔らかく、雨が降るとぬかるんで滑りやすくなっていました。その対策として麻袋の足場を設置したり、木材のチップや谷戸の上流から流れ込んで堆積した砂を通路にまきました。だいぶ歩きやすくなり再開することができましたが、もともN8付近は狭い谷で地面が常に湿っているような環境です。降雨時、雨上がりなどは足元に注意して、ゆっくり歩いてください。

※N17からN18の階段は崩落の可能性があるため、今後も通行止めとさせていただきます。

＜池の土留めを補修しました＞

Y2付近の池では冬の間水を抜き、一部浚渫と踏圧などにより傷んでしまった池の縁の土留めや排水口付近の補修作業を行いました。園路との境に畔板や土のうを入れて水もれなどを防ぎます。

作業の途中でカエルの産卵時期になってしまいましたが、池の奥側にカエルが産卵できるよう小さい水辺を残しておいたおかげで無事に産卵し、オタマジャクシが育っています。



新しい通路(N9付近から)



Y2付近の池

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、HPで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

●●● 2024年10月～12月の実績 ●●●

受け入れ総数は、52頭羽（哺乳類5頭・鳥類47羽）でした。

救護件数上位種		主な救護原因(人為的要因による)			
種名	件数	鳥類の原因	件数	哺乳類の原因	件数
キジバト	11	粘着剤(ネズミ捕り等)	11	交通事故	3
スズメ	5	ガラス窓等への衝突	9	疥癬症(かいせんしょう)	2
タヌキ	5	ネコ等に襲われる	4	放野数	
アオバト	3	交通事故	1		
トビ	3	釣り針・釣糸に絡む	1		
				鳥類	23
				哺乳類	1

野生動物救護ボランティアの活動の紹介 Vol. 5 — ボランティア歴14年 Yさん —

今回は、猛禽類を中心にリハビリなどに尽力してくださるYさんにお話を伺いました。

Q ボランティアになったきっかけを教えてください。

A 子供の頃から動物に関わる仕事がしたかったのですが、違う仕事をしてきたため、人生最後のやりがいと思い、センターの募集を見て、動物達の為に少しでもお手伝いが出来るならとボランティアになりました。

Q 活動中にここがけていることはありますか。

A

- ・常に動物視点で考えること。
- ・よく観察すること。
- ・野生動物に関わる時は、彼らに対してのレスペクトを忘れないこと。
- ・情熱を失わないこと。
- ・命の大切さを重んじること。

Q 猛禽類のリハビリを始めたきっかけや理由を教えてください。

A

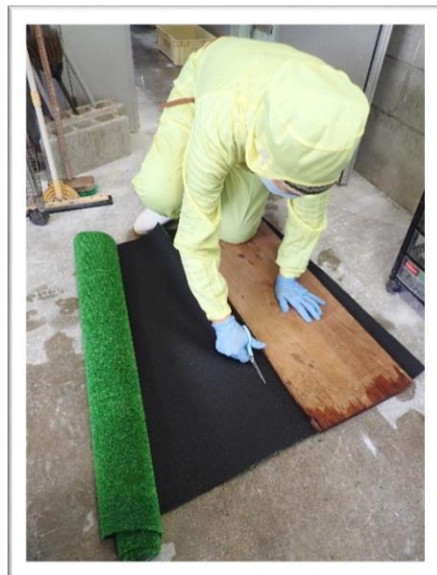
- ・以前、他団体の施設でトビ等のリハビリを行っていた経験を生かしてみたかったです。
- ・他の施設でもトビはなかなか野生復帰出来ないケースが多いので、なんとかならないかと思っていました。

次のページでは、

Yさんが行っているオオタカの飛行訓練の様子とリハビリで工夫した点や苦労したこと、今後の意気込みについて紹介します。



↑ 2024年12月9日
Yさん(黄色いツナギ姿)とリハビリ中のオオタカ



↑ 必要なリハビリ道具は手作りします！

室内での飛行リハビリの記録

南足柄市内で右脚の脛骨（右写真：黄矢印）を骨折した状態の若いオオタカを受け入れました。

原因は不明ですが、翼にケガはなく、最初は飛行できていましたが、脚の治療に専念していた間に筋力が低下してしまい、うまく飛べなくなってしまいました。放野を目標にした場合、野外にあるフライングケージの中で時間をかけて飛行リハビリを行うのですが、整備途中で長期間使用することが困難なため、今回は複数羽の鳥（ケージで個飼い）もいる室内でリハビリを行うことになりました。

放野までどのようなリハビリを行ったのか、ここで紹介します。

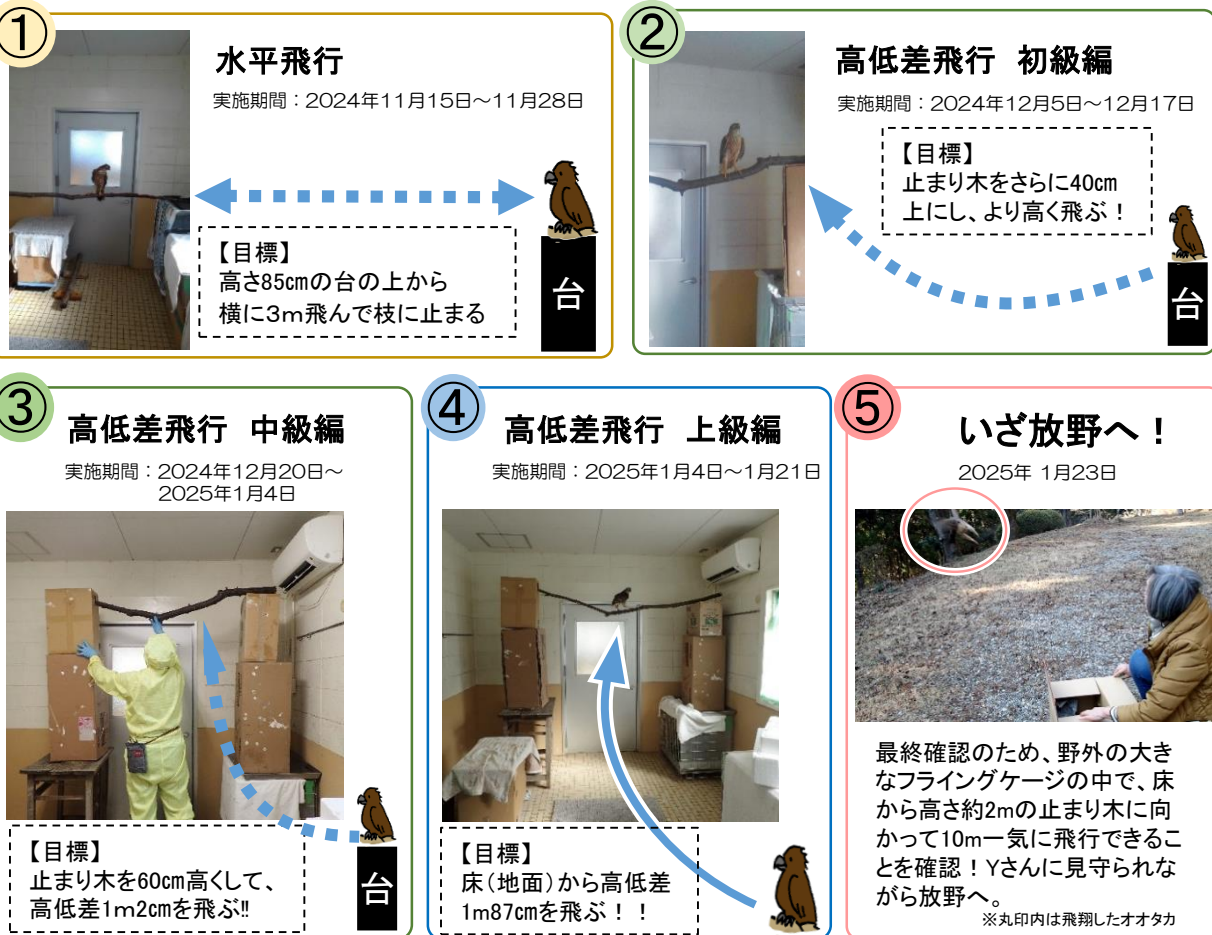


2024年10月14日
受け入れ時のオオタカ

基本データ

種名	オオタカ（タカ科）
生息地	平地から山地の林等
食性	主に鳥類
生態	留鳥として都市公園や人家近くの緑地でも繁殖する

室内飛行リハビリの流れ



苦労話

当日のオオタカの状態を観察し、その日に行うリハビリの内容を考えるYさん。最初の1か月はうまく飛べるのが2回に1回程度で、うまく飛べる日もあれば飛べない日もあり、放野を目指しているため、一喜一憂。『焦らずゆっくりオオタカの自発性を大切に♪』と思っていても、つい目的意識が強くなり過ぎてしまう事があり、自分自身をコントロールするのが難しかったそう。さらに、道具はダンボールや枝など身近にあるものを創意工夫して使用するため、試行錯誤したそうです。

今後の意気込み

リハビリをする設備の改善をして、関心のあるボランティアの参加を募り、みんなで意見を出し合うことでより良いリハビリができるようになりたい！

Yさんより

忙しい中、毎週2回通い続けてくださっているYさんは、他の鳥たちの世話を行いながらも効率良くリハビリを行うのは困難の連続だったそう。また、他の日は職員が継続することで今回は放野に至りました。

わからないことは調べるなど、Yさんの動物に対する姿勢や情熱は職員にとっても刺激になっています。これからも一緒に試行錯誤していきたいです！



↑ 放野直前のオオタカ